

様式第3号(第7条関係)

会 議 録

- 1 附属機関の会議の名称 令和元年度第2回水戸市協働推進委員会
- 2 開催日時 令和2年3月2日(月) 午後1時30分から午後3時45分まで
- 3 開催場所 水戸市役所市民協働会議室こみっとルーム
- 4 出席した者の氏名
- (1) 委員 大野 寛, 片山 昭男, 大竹 隆志, 鹿倉 よし江, 石川 浩之,  
早川 裕之, 井上 綾子, 羽石 英司
- (2) 執行機関 【市民生活課】課長 小川 邦明,  
副参事兼課長補佐 海老澤 守,  
市民活動・消費生活係長 吉田 友洋,  
協働係長 橋本 隆志, 主幹 長島 望  
【泉町周辺地区開発事務所】所長 加藤 久人, 主幹 吉元 一真  
【高齢福祉課】地域支援センター所長 土屋 勝  
【障害福祉課】子ども発達支援センター所長 舘 美代子  
【総合教育研究所】副参事兼支援相談係長 玉井 康浩  
【文化交流課】文化交流係長 大森 明彦, 主事 富山 真祐子  
【介護保険課】課長 荻沼 学  
【農政課】企画係長 長谷川 修,  
ふるさと農業センター所長 長谷川 祐紀
- (3) その他 特定非営利活動法人セカンドリーグ茨城  
茨城県介護支援専門員協会水戸地区会  
国田歴史学習会  
じゃあまいいかねっと-市民活動ネットワーク-  
おとのわプロジェクト実行委員会  
特定非営利活動法人ちいきの学校  
森っこ  
株式会社ナムチェバザール

- 5 議題及び公開・非公開の別 水戸市協働事業提案制度「わくわくプロジェクト」に係る  
令和2年度提案事業の公開プレゼンテーション（公開）  
全体審議（非公開）
- 6 非公開の理由 （全体審議）
- ① 公にすることにより，当該団体の権利，競争上の地位その他  
正当な利益を害するおそれがあるため。
  - ② 公にすることにより，率直な意見の交換若しくは意思決定の  
中立性が不当に損なわれるおそれ又は不当に市民の間に混乱  
を生じさせるおそれがあるため。
- 7 傍聴人の数(公開した場合に限る。) 2人
- 8 会議資料の名称 令和2年度提案事業の概要
- 9 発言の内容

【公開プレゼンテーション】

副委員長	<p>ただいまから，令和2年度水戸市協働事業提案制度「わくわくプロジェクト」の公開プレゼンテーションを始める。提案のあった8事業について，提案団体と市担当課から，事業の概要，協働による効果，役割などについて発表していただく。なお，審査を行っていく上で，委員の中で，提案のあった団体に所属する，または，密接な関係にある場合には，その提案事業の審査から外れるものとなっており，「市民参画による道路等パブリック空間の有効活用検討事業」について，私が該当するため，本提案の審査から外れさせていただきます。</p>
提案団体 泉町周辺地区開発事務所	<p>【発表：市民参画による道路等パブリック空間の有効活用検討事業】</p>
委員	<p>自分自身，プレイパークを主催した経験があるが，東京のまちと水戸のまちは異なるので，みち遊びがうまくいくかどうか不安を感じる。参加者へのヒアリングの目標人数はどの程度か，ヒアリングを実施してから，みち遊びを開催するのか教えてほしい。また，収支計画書にある警備員に対する謝金の金額は適正な金額か。</p>
提案団体	<p>まず，みち遊びを開催して，参加者へヒアリングを実施したいと考えている。1回のみち遊びで，100名ほどにヒアリングを行いたいと思っており，みち遊びは2回開催予定なので，目標人数としては200名である。 東京のまちと水戸のまちが異なるという点については，委員の御指摘のとおりだと思う。発表で紹介した事例は，東京都の丸の内を実施したみち</p>

	<p>遊びで、両親が働くまちで、子どもと遊ぼうという企画であった。水戸市でみち遊びを開催しても、東京で開催するように多くの参加者が集まり、すぐに参加者間のコミュニティが形成されるとは考えてはいない。この事業を通して、市民が、自分たちの住む地域のために、自分も何かできるという気持ちになることができればよいと思う。なお、参加者間のつながり、コミュニティが形成されやすいよう、専門のコミュニティワーカーにヒアリングを依頼する予定である。</p> <p>最後に、警備員に対する謝金であるが、通行止めを行う場合、専門的な訓練を受けた警備員を配置しなければならず、そういった際に派遣される警備員に対する謝金の相場と同程度の金額を計上している。</p>
委員	<p>本事業は、新市民会館の完成を見通しての提案だと思う。新市民会館は、令和5年4月に完成予定だと思うが、それまでの期間に、この事業内容を継続的に実施していく方向で考えているのか。</p>
泉町周辺地区開発事務所	<p>委員のおっしゃるとおり、新市民会館は令和5年4月の完成予定である。泉町周辺地区開発事務所では、3年ほど前から、水戸芸術館広場で開催されているイベントにあわせ、春と秋に水戸芸術館広場前の道路の一部区間で試験的に通行止めを行っている。その際に、市民アンケート等を実施し、通行止めにより生じる付加価値や効果を検証している。今回の提案は、その活動の延長線上にあるものと考えている。新市民会館の完成までに約3年間の期間があるが、道路の有効活用の手法について、継続して市民のかたと検討を進めていきたいと考え、今回、市の行政課題として、「道路等パブリック空間の有効活用」を提示した。</p>
提案団体	<p>本提案は、一つの事例をお見せしているに過ぎないと考えている。みち遊びへの参加者からどういった発想が生まれるのかわからないが、こういったイベントに参加して、刺激を受けながら議論したほうが、さまざまな意見が出やすく、多様な発想につながると思う。</p> <p>また、中心市街地で開催している310食堂でも、高校生をはじめとした若い世代が多数関わっており、若い世代は水戸の資源の一つであると感じている。特に、若い世代に、こういった企画に関わることで、自分たちの提案によって、住むまちがよくなっていく、自分の住むまちには、自分が責任を持つという思いを持つことができるようになってほしいと思う。</p>
提案団体 高齢福祉課	<p><b>【発表：在宅医療・介護・看取りを語る会】</b></p>
委員	<p>提案書の事業目的には、実施したアンケートの結果や事業の背景が記載されており、事業の目的に関する記載が少なく感じる。今回の提案事業が採択された場合、継続事業として2年目を迎えるが、今回の提案の特色はどのようなものか。</p>
提案団体	<p>今回上映する「ピア」という映画は、医療・多職種が在宅医療に取り組むという設定となっており、今年度と違う形で看取りを考えることができるという点が特色と言える。また、今年度は、「在宅医療・介護・看取りを語る会」を大規模な形で年に2回開催したが、次年度は、全34地区で小規模な形で「在宅医療・介護・看取りを語る会」を開催し、継続的に地域と関わっていきたいと考えている。</p>

委員	収支計画については、今後、詳細を固めていくと思うが、金額が大まかすぎるので、精査されたい。
副委員長	次年度は、「在宅医療・介護・看取りを語る会」の開催回数を増やすということだが、体制的な問題など、開催にあたっての難しさを感じることはあるか。
提案団体	茨城県介護支援専門員協会水戸地区会には、208名の会員が在籍しているので、地区ごとに3～4名程度の担当を割り振ろうと考えている。「在宅医療・介護・看取りを語る会」については、市民センター職員だけでなく、市民センターを利用している団体等とも日頃から交流を図りながら開催したいと考えている。 地域づくりということも、ケアマネージャーに期待されている役割のひとつなので、本提案制度を活用できる期間が終了した後も、この事業をきっかけとして、地域づくりを継続して行っていきたいと思う。
委員	例えば、市民センターで映画を上映する場合、どのような形で日程調整等を行うのか。
提案団体	協働事業ということで、担当課である高齢福祉課と協議しながら、土曜日・日曜日を中心に会場を確保していきたいと考えている。なお、令和2年度は、映画上映を市内16地区、「在宅医療・介護・看取りを語る会」を市内34地区で実施する予定であり、ポスター等の広報物を作成し、広報活動を行う予定である。
副委員長	映画の上映を行う場合、密閉空間での上映になると思うが、新型コロナウイルス感染症対策への対応は考えているか。また、映画の上映を開始する時期に変更が生じてても、問題はないか。
提案団体	映画の上映時期については、社会福祉協議会等と協議しながら、市民が参加しやすいと思われる6月、7月に設定した。新型コロナウイルス感染症の影響が継続している場合には、上映時期については改めて検討する。
提案団体 市民生活課	〔発表：国田地区の名所・史跡探訪を通じた魅力再発見プロジェクト〕
委員	令和2年度をもって、本提案制度を活用した事業としては最終年度となるが、案内板の設置等のハード面の整備は、令和2年度をもって終了するのか。
提案団体	終了とする。
委員	本提案制度の活用期間が終了しても、史跡めぐり等のソフト事業を継続していかなければならないと思うが、実施体制を含め、今後の展望はどのようなものか。
提案団体	案内板については、多額の費用を要するため、自主財源のみで設置することは困難であると考えているが、他の財源の獲得や自己負担など、自主財源を確保して、事業を継続していきたいと考えている。また、市民センターの定期講座に歴史講座を組み込む提案をするなど、費用をかけずに、

	事業を継続できるような方法についても検討しているところである。
委員	収支計画書において、ボンネットバス2台の借上げに係る費用が計上されているが、実現可能なのか。
提案団体	市の観光課に確認し、つくば市にある日本バス保存会から2台のボンネットバスを借り上げる場合の金額を計上している。この金額は、梅まつり期間中にボンネットバスを運行した場合の金額なので、実際にかかる経費は多少変わってくると思う。
委員	本事業においては、こういった形でボンネットバスを使用する予定なのか。
提案団体	ボンネットバスを使用して、史跡探訪を行う予定である。本事業の採択・不採択がまだ決定されていないため、その詳細については未定である。
委員	子育て世代をはじめとした若い世代の巻き込みが今後の課題となると思うが、若い世代へ広報活動については、どのようにお考えか。
提案団体	常陸大宮市の天神林町という地区が作成したマップを参考に、国田地区のマップを作成したいと考えている。完成後は、地域のイベントで配布するだけでなく、市民センターにも設置し、市民が気軽に手に取ることができるようにしたい。
委員	国田地区に飛行場があったという自分の住む地域にまつわる歴史を知らない子どもたちも多いと思う。子どもたちに地域の歴史や伝統文化を伝える機会の一つとして、イベントの開催等も検討してほしい。
提案団体 高齢福祉課	<b>〔発表：LD、HSCの子どもが育つ環境を整える事業〕</b>
委員	私は、現役で支援員をしており、子どもたちと接する機会がとても多いので、とてもよい取組だと感じた。今回の提案の中にある「学びのサポート養成講座」は、各学校の支援員を対象とした研修会の内容にも取り入れてほしいと思う。また、LD（学習障害）という特性を持った子の精神的な負担が減るよう、ICTを活用した授業の展開など、具体的な取組についても、教育部と協議しながら、事業を進めてほしい。
提案団体	LDは学習に関わることなので、学校教育の中での支援が非常に重要だと思っている。行政と協働をすることができるこの機会に、一緒に取り組んでいきたい。
委員	LD、HSC（人一倍敏感な子）について、耳にしたことはあるが、なかなか認知されにくいということで、これまで苦労されてきたことと思う。大変なことも多いと思うが、この活動をより多くの人に知ってもらいたいと思う。会員の中に、LDやHSCに関する専門的な知識を持ったメンバーはいるのか。
提案団体	講座の講師を務めることができるほどの専門的な知識を持ったメンバーはいない。自分自身、娘がLDを持つ当事者であり、娘の経験を通して、

	LDについて知ることでもでき、さらに、ここ1年ほどは、LDについて学んでいるので、少なからずLDに関する知識や経験はあると思う。
委員	身近に感じる課題を会員間で共有しながら、活動を展開していくのか。
提案団体	開催予定の講座の講師を依頼しているかたは、LDやHSCの専門家のかたが多いので、講座を通じて学んだことを、今後の活動に反映させていきたい。
委員	講師は水戸市外で活動されているかたか。
提案団体	今回、講師を依頼しているかたは、つくば市でLDに関わる活動を行っているかたや大学教員等である。主に、つくば市で活動しているかたがたと連携していく予定である。
委員	他の自治体の成功事例も参考にしながら、事業を展開してほしい。
副委員長	LDやHSCといった特性については、まだあまり認知されておらず、家族間でも認知されていない場合もあると思う。講演会を開催することで、一般のかたにその存在を知ってもらうことができる一方、その場だけのつながりになりがちである。当事者間のつながり、意見を集める機会の創出については、どのように考えているか。
提案団体	現時点で、LDやHSCとの診断を受けている子は少なく、まだ診断を受けていない、勉強のできにくい子という見られ方をしている段階の子が多いと思う。そのため、この事業では、まず大人がLDやHSCに関する知識を身につけ、LDやHSCの子に気づくところから始めようと考えており、当事者間のつながりを創出するという展開にまでは至っていない。
提案団体 文化交流課	〔発表：茨城“おとのわ”プロジェクトin水戸〕
委員	着眼点がよいと思う。まち全体を音楽で元気にしたいという思いが伝わってきた。東京都の吉祥寺や高円寺で、アーケード街を利用して、生演奏を行い、地域の賑わい創出につなげているという事例もあるので、実現可能性はあると思う。会場の選定など、今後の展望について伺いたい。
提案団体	来年度は、年間12回の演奏会を行う予定であり、マチノイズミというコミュニティースペースや福祉施設での開催は既に決定している。もし、協働事業として実施することができれば、さらに選択肢が広がると思うので、千波湖周辺や西の谷など、活動の幅を広げていきたい。
委員	まずは、事業を知ってもらうことが大切だと思う。入場料を無料にするなど、演奏会に対するハードルを下げて、気軽に音楽に触れることができる雰囲気が生まれればよいと思う。
委員	とてもよい取組だと思うが、さまざまな費用がかかるので、演奏会の開催に至るまでが大変だと思う。既に御存知かもしれないが、関西にある大阪大学では、キャンパス内で月に一度、ワンコインコンサートを実施しており、近隣住民が気軽に訪れている。そういった事例も参考にしてほしい。

	<p>また、行政と協働して事業を展開するという事は、一つのメリットだと思うので、SNS等を活用しながら、広く活動を周知してほしい。</p>
委員	<p>日頃から音楽に関わる機会がある人々にとっては、とても興味深い企画だと思う。この企画をどのように広く市民に知ってもらうかが、今後の大きな課題になると思う。既に演奏会の会場の選定はある程度進んでいるのだが、たとえば、水戸まちなかフェスティバルなどの市のイベントに参加して、たくさんの人に知ってもらおうということも有効だと思う。他のイベントと連携することは考えているか。</p>
提案団体	<p>例えば、福祉系のイベントなど、さまざまなイベントと連携しながら活動を広げていきたいと考えている。</p>
委員	<p>多くの人が訪れる七ツ洞公園での開催も検討してみるとよいと思う。</p>
副委員長	<p>当初の収支計画から変更が生じ、印刷製本費が増額となっている。どのような広報活動を予定しているのか。</p>
提案団体	<p>当初の印刷製本費は、1回の演奏会ごとに印刷予定の2,000部のチラシの印刷に係る経費を計上していた。印刷したチラシは、1,000部を教育機関等へ配布し、残りの1,000部を演奏会のプログラムと併せて配布する想定である。なお、増額した分の印刷製本費については、茨城“おとのわ”プロジェクトin水戸そのものを知ってもらうためのリーフレット作成に充てる予定である。興味を持った人が、気軽に演奏家へ依頼をすることができるような仕組みのひとつとして、リーフレットにQRコードを掲載したいと考えている。</p>
提案団体 介護保険課	<p><b>【発表：介護助手養成 ちいすけ水戸】</b></p>
委員	<p>「介護助手」という職種は、公的な資格として認められているものか。</p>
提案団体	<p>公的な資格ではないが、介護の周辺業務を行う者を「介護助手」と呼んでおり、「介護助手」は位置付けになるかと思う。急に介護業務に携わるということは、就労する側にとってはハードルが高いと思うので、「介護助手」の業務を通じて、介護職に対するハードルを下げてもらいたいと思う。</p>
委員	<p>わかりやすい発表だった。研修の参加者が、1日のみの研修で「介護助手」の知識を身につけ、介護事業所とのマッチングを行うということはとても難しいことだと思う。就労後は、「介護助手」に対する給与も発生すると思うので、場合によっては、ハローワークとの連携も検討してほしい。</p>
提案団体	<p>就労希望者への研修会、事業所に対する説明会を開催するだけで、全てうまくいくとは考えてはいないので、さまざまな機関との連携を模索しながら、事業を展開していきたいと思う。</p>
副委員長	<p>「介護助手」は、有償ボランティアではなく、有給職員という位置付けになるか。また、有給職員の場合は、それぞれが就労する事業所と雇用契約を結ぶ形になるか。</p>

提案団体	「介護助手」は有給職員となり、就労先の事業所と雇用契約を結ぶ形になる。
副委員長	収支計画書に、新聞広告費が計上されている。プレスリリースなど、費用が生じない形でも広報活動は行うことはできると思うが、その点についてどのように考えているか。
提案団体	以前、新聞広告を通じて、介護職の入門的研修の受講者を募集した際、100名ほどの受講希望者が集まった。この研修は計4日間の研修で、100名も希望者が集まるとは想定していなかったのだが、市民に届きやすい形で広報活動を行えば、必ず反響があると感じた。この経験を踏まえ、なるべくアクティブシニア層に届きやすい形で広報活動を行いたいと思い、新聞広告での広報活動を想定している。
委員	研修の内容には、実習が含まれていないようだが、介護の体験がないまま、「介護助手」として就労しても大丈夫なのか。
提案団体	研修のカリキュラムそのものに介護実習は含まれていないが、ワークショップで介護の疑似体験を行うなど、就労希望者とその就労先の事業所間でギャップが生じないようにしたい。
委員	アクティブシニア層だけでなく、未就学児の子どもがいる主婦層なども2～3時間程度の短時間で働くことができるという人は多いと思うので、プレスリリースなどを通じて、広く情報発信を行っていただきたい。
提案団体 農政課	<b>〔発表：親子で楽しむ森遊び 森っこ〕</b>
委員	発表を通じて、楽しく活動している様子が伝わってきた。インクルーシブな環境で、子どもたちだけでなく、保護者にとっても癒しの場になっているのではないかと思う。本提案制度を活用できる期間が終了したあとの活動の展望についてお伺いしたい。
提案団体	本来であれば、長期的な展望を持って、事業を展開していかなければならないと思うが、メンバーは、家事や育児、仕事をしながら活動している状況のため、1年ごとに自分たちが実現できる形で事業を運営していきたいと考えている。質問に対する回答になっているかわからないが、事業を継続することそのものが目的ではなく、参加者が、自ら身近な自然環境の中で森っこのような活動を行い、その活動を通じたコミュニティが各地で形成されていくことが本活動の目指す姿である。
委員	そういったコミュニティが増えていくとよいと思う。この活動に参加した子どもたちが成長して、また「森っこ」活動を試みようという気持ちになることができればさらに楽しいと思う。
委員	素晴らしい活動をしていると思う。市内の地域資源を活用しながら、子どもたちが学び、他の家族と交流することもでき、よい思い出になると思う。活動を継続して行ってほしいと思うが、事業の運営にあたり、今後の財源の確保について、どのように考えているか。



提案団体	先ほども話したとおり、長期的な展望を持つことは難しいが、もし活動を継続することができた場合、参加費収入のみで現在の活動内容を維持していくことは難しいので、他の助成金の確保にも挑戦したいと思う。
委員	私も、所属団体で子どもたちを対象にした事業を年に数回行っているが、それぞれ事業目的が異なる。本提案事業も継続していただきたいと思うが、この事業の目的は、子育て支援、青少年育成、あるいは森林公園という地域資源の活用なのか。一番の主となる目的を教えてください。
提案団体	自分自身の個人的な意見になるが、森林公園という水戸市にある身近な自然を楽しむということが、主となる目的だと考えている。その目的の達成に向けて活動を行った結果、子育て支援等につながっていくと考えている。
副委員長	今年度、事業を実施している中で感じた課題はあるか。
提案団体	今年度は、天候にも恵まれ、当初のスケジュールにあわせた活動ができた。また、活動への参加者からは、次年度はスタッフとして参加したいという声も上がっているところである。今すぐには思い浮かばないが、今後は問題意識を持ちながら活動を展開していきたいと思う。
提案団体 農政課	<b>〔発表：キッズトレイルランニング大会〕</b>
委員	大会で走行するコースについては、発表時に使用していた写真と同じ程度の道幅が確保されているのか。
提案団体	人がすれ違うことができる程度の道幅は確保されているが、コース全てが写真と同じような道幅ではない。道幅が狭い箇所も一部あり、コース全てが整備されているというわけではない。
委員	これらのコースは、これまで提案団体が整備してきたのか。
提案団体	以前から、ある程度は整備されていたが、現地は単純な場所の割に、道が複数あり、一度方向感覚を失うと迷ってしまう恐れがあり、これまであまり利用されてこなかった。コースの中に、一部車両が通行する林道があったため、ランナーが安全に走ることができるよう、コースの変更を行ったという実績はある。
委員	私も5年ほど前にトレイルランニング大会を企画したことがあるが、やはり現地で案内看板が少ないという印象を受けた記憶がある。ランナーが、迷ってしまうという不安に襲われないよう、コース内に案内看板があるとよいと思う。 また、環境教育の観点から、トレイルランニング大会当日、大会終了後に参加者がごみ拾いをできるような時間が設けられるとさらによいと思う。
提案団体	環境教育については、本事業のテーマのひとつとして位置付けているので、委員から御提案のあったごみ拾いについては、事業に取り入れていきたいと思う。トレイルランニング大会を行う予定のコースは、かつて不法

	<p>投棄が多く、荒れていた場所であった。現地を整備したこと、また、整備され、人通りが生じたことで、不法投棄は減少した。さらに、現在は地域住民や専門業者が参加するクリーンアップ作戦で粗大ごみも処分しており、現在、目に見える範囲で不法投棄は見られない。人通りがあり、ごみが捨てにくいという好循環になっており、本事業を通じ、森林公園の利用促進に加え、不法投棄の解消にもつなげていきたい。</p>
委員	<p>身近にトレイルランニングをすることができる環境があるということは、貴重な地域資源だと思う。水戸市内だけでなく、広くPR活動を行い、交流人口の増加につなげてほしい。</p>
委員	<p>発表を見て、とても楽しそうな事業だと感じた。ただ、自然の中で遊ぶことに慣れていない子どもたちは、大人の想像しないような行動をとって、思わぬ怪我をする可能性があると思うので、まずは、体験会のような形で実施して欲しいと思う。また、環境教育という事業目的を達成するため、森を整備することがどのように環境保全につながるのかということ子どもたちにわかりやすく伝えてほしい。</p>
提案団体	<p>まず、体験会については、既に小学生を対象とした体験会を実施している。体験会の開催にあたっては、子どもたちが安全に走ることができる環境であるかを確認しており、安心して走ることができると思う。また、これまでに怪我をした子どもは一人もいない。</p> <p>環境教育については、森林公園で遊んだ、自然に触れたという経験から、この場所、この環境を守らなければならないという気持ちになるというプロセスを大切にしたいと考えている。ごみ拾いが環境保全になるという限定的な考えではなく、環境保全につながるアクションのひとつとしてごみを拾おうという気持ちになってもらいたいと思う。</p>
委員	<p>補助金や参加費収入に加え、本事業に対する協賛金を募ることで、大会の参加費を抑えることができれば、子どもたちがより気軽に大会へ参加することができるのではないかと思う。</p>